

## ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

ようやく道路脇の雪もほぼ融け、春になってきたと実感できるようになりました。ただまだ朝晩は冷えますので、外に出るときは温かい格好をすると良いでしょう。一昨年の4月2日に開院して、ようやく2年が経ちました。この日を迎えられるのも、地域の皆様方のおかげです。これからもよろしくをお願いします。

前回まで糖尿病の話をしてきました。今回からは消化器の話をしていきます。まずはピロリ菌についてです。胃の出口のことを幽門というのですが、これを英語に直すとピロルスです。胃の幽門付近から見つけれられたので、ピロリ菌と名付けられました。ピロリ菌がいるかないかを調べる検査はいくつかありますが、以前は迅速ウレアーゼ試験を行われることが多かったです。胃の出口付近の粘膜を採取して、迅速ウレアーゼ試験の反応が出ると、ピロリ菌に感染していると診断するのです。ウレアーゼは、尿素をアンモニアと水に分解します。ピロリ菌はアンモニアが必要なので、ウレアーゼ活性を持っているのです。胃の中には胃酸があるので酸性度が高く、細菌は生きられないと考えられていました。胃の中で生きるためには、酸性度を低くしなければなりません。そのために必要なのがアルカリ性物質です。アンモニアはアルカリ性物質なので、胃酸と中和します。ピロリ菌はアンモニアのバリアーを張ることで、胃の中で生きることができるのです。

ピロリ菌の除菌をした後に胸やけが生じる方がいますが、これはピロリ菌がいなくなったことでアンモニアが作られなくなり、胃の中の酸性度が上がってしまったことが原因です。

大楽毛 2-2-27 Tel.64-6650  
ちば内科クリニック 院長 千葉 淳